

保育者の実践的指導力の育成・向上に関する研究

－ 保育において「見通し」を持って動く視点から －

渡辺 桜* 岩田幸子** 横井志保*** 村岡眞澄

〈研究目的〉

筆者らは、保育者の実践的指導力^{註1)}の育成・向上についてのより有効な方法を追求することを目的として研究を進めている。実践的指導力の構成要因の中で、保育者のもつ雰囲気や動き、所作といった“身体性”に関わる要因は、とくに乳児など年齢の低い子どもとの関わりにおいては重要な意味をもつことから、研究の第一歩として、保育者に望まれる身体性を意識化できるように明確にすることを試みた。⁵⁾ 追求する目的を達成するには、まずその内容を認識し意識化することが前提となると考えたからである。

保育者の指導力を育成したり向上させることを目的とした研究は数多いが、^{1) 2) 10)} 実際の保育の観察を通して、保育者の指導力を身体性の視点から追求した研究はあまりみられない。筆者らのこれまでの研究の結果では、熟達した保育者の動きや所作の特性として、「ゆるやかでゆったりとした中の素早さ」「どっしりと落ち着いていながら軽快」「やわらかさ」などの3つの特性が抽出されたが、これらの所作や動きがどのようにすれば可能となるのかは今後の課題として残された。本研究の目的は、この残された課題を追求することである。筆者らの研究協議のプロセスにおいて、保育における「見通し」が保育者の中に形成されていることが、このような動きを生み出す要因の一つになっているのではないかという研究仮説が提示された。保育において「見通し」をもつことは、保育の経験を積み重ねることと大きく関係している。当然のことながら、新任の保育者が「見通し」をもつことはなかなか難しい。しかし、「見通し」をもつことがどういうことなのかを明確に認識され意識化されれば、その獲得に要する時間が短縮され、指導力の向上がより容易になることが期待される。以上のような認識を基底にして、保育の中での保育者と子どもとのやりとりを中心に観察し、新任保育者とキャリアのある保育者とを比較考察しながら、「見通し」をもって動くということはどういうことかを明らかにしたい。

〈研究方法〉

1. 保育観察

1) 観察期間：2001年12月～2002年11月

この期間に4回の観察を行った。

2) 観察対象

愛知県C市立保育園、A大学附属幼稚園、T市立保育園、N市立幼稚園計4園の3～5歳児クラス担当保育者11名。

* 名古屋文化学園保育専門学校 非常勤講師

** 椋山女学園大学 非常勤助手

*** 一宮女子短期大学

3) 観察場面

子どもが登園してから食事の準備までの保育場面。

4) 観察方法

異なる4園において、新任保育者2名とそれ以外の保育者9名を観察し、保育者と子どもとのやりとりを中心に記録する。

2. 保育事例の分析

観察後、それぞれの記録を基に、観察者において捉えられた保育者の行為の特性を抽出する。

3. 保育の「見通し」に関する記述の図式化

新任保育者とそれ以外の保育者の行為の特性、中でも保育の「見通し」に関する部分を時間の経過と共に図式化する。

〈結果と考察〉

1. キャリアによる保育者の特性の違い

新任保育者2名は共通した行為の特性が見られたが、それ以外の保育者9名は経験年数の長短にかかわらず特性にばらつきがあった。そこで、後者の9名の記録を中心に検討したところ、先に述べた熟達した保育者の動きや所作の特性をもつ保育者が2名抽出された。従って、この2名を保育キャリアのある保育者として新任保育者と比較考察することとした。それぞれの保育者の内訳は以下の通りである。

| A：新任保育者（2名） | B：保育のキャリアが感じられた保育者（2名） |
|-----------------------------------|--|
| ● A1 保育者（保育園）4歳児クラス 2001年12月記録 | ● B1 保育者（保育園）4歳児クラス 保育経験10年目 2002年11月記録 |
| ● A2 保育者（幼稚園）4歳児クラス 2002年11月記録 | ● B2 保育者（幼稚園）5歳児クラス 保育経験33年目 2002年11月記録 |

図1、2は、保育者と子どもとのやりとりから保育者の行為の特性を時間の経過と共に保育キャリア別に比較対照したものである。キャリア別に、保育の「見通し」の違いが明らかであると思われたA2保育者とB2保育者の記録1、2を基に図示した。

図1及び記録1において破線で示した通り、A2の新任保育者は場当たりの全体が見えておらず、保育者からの一方的な思いが強い。つまり、子どもの動きに対するレスポンス性⁷⁾が弱いということができよう。もちろん、新任ならではの良さも表れている。それは、二重下線で示したように、元気いっぱい園庭を走り回って子ども達と遊ぶ姿である。保育者のはつらつとした姿に子ども達は魅力を感じ保育者を求めている様子がうかがえる。

一方、B2の保育のキャリアが感じられた保育者は図2及び記録2において下線で示したように、ある一定の時間、遊びや子ども個々とのかわりにおいて自分が拠点をおく所をおおよそ決めながら、クラス全体の子どもや遊びに目を向け援助している。A1、B1保育者に関しても動きの特性に、A2やB2ほどの鮮明さはないが、同様の違いがみられた。

記録1 新任保育者 (A2)

注：記録中、保育者は保と表す

| 時間 | 言葉かけ | 動き・動作 |
|-------|--|---|
| 10:35 | | <p>園庭中を元気良く走り回り15～20人位の子と追いかけてっこをしている。</p> <p>《保育室内》</p> <p>・クッキー屋さんごっこ女兒2人 ・製作男児1人</p> <p>・何をしようか探すようにしている男児1人 ・絵本女兒3人⇒1人</p> <p>(子どもはもう遊んでいないが粘土板や画板、使ったマジックなどがそのまま置いてある状態。遊びの充実感やふくらみを感じられない。)</p> |
| 40 | <p>フリーの先生</p> <p>「～ちゃん、寂しくなっちゃったんだって。」</p> | <p>このクラス的女児が他クラスで寂しそうにしていたのでフリーの先生がその女兒をつれてクッキー屋さんのコーナーに加わる。みるみる室内で遊んでいた子どもが集まり、クッキー屋さんが盛り上がる。</p> <p>女兒3～5人が保の袖をひっぱったり手をつなぎながら追いかけてっこをしている。</p> |
| 42 | <p>「あ！あそこにいるぞ！つかまえて！」</p> <p>子「た～べ～て～ごらん～」</p> | <p>まわりについてくる子を振り払うようにしてすごいスピードで走り出す。</p> <p>ジャングルジムを基点として保との追いかけてっこに参加している子8～10人。ジャングルジムに登っている子が保を誘うように言う。</p> <p>子どものお腹をムシャムシャと食べる真似をする。</p> |
| 45 | <p>A男「おいしいよ！」</p> <p>(つかまえて食べてという思いを込めて言う。)</p> <p>「あ～Yちゃん大丈夫？」</p> <p>「Yちゃんなら大丈夫！Yちゃん～」</p> | <p>遠くからちらっと保育室を見る。(室内ではフリーの先生はおらず再びどの子も遊び込めていないようす。)</p> <p>A男ジャングルジムの子達とやりとりしている保の後ろから走ってきて保にぶつかる。</p> <p>振り返ったと同時にものすごいスピードでA男を追いかける。</p> <p>保の移動と共に10人位の子が保を追って走っていった。</p> <p>その勢いについていけずY子が転ぶ。泣いてうずくまるが他児はちらっと見て保との遊びに行ってしまう。観察者が見かねてY子の体についた砂を払い、怪我のないことを確認する。ジャングルジムの方に保が戻ってくるがY子のようすに気付かないようなので観察者から声をかける。</p> <p>砂を払い、怪我がないことを確認する。</p> <p>保が追いかけるとうれしそうに逃げるY子。</p> |
| 50 | <p>H子「 」</p> <p>(聞き取れない)</p> <p>「なんかいい匂いがするな～。」</p> <p>「なげちゃだめ」</p> | <p>H子保に何か伝える。(保育室でのクッキー屋さんごっこを見て欲しいといったような内容だったらしい。)</p> <p>小窓より室内をのぞき声をかける。</p> <p>(クッキー屋さんごっこは終わっており、ままごとコーナーでどんぐりを広げて遊んでいた男児が保めがけてどんぐりを投げる。)</p> |

| | | |
|----|--|--|
| 52 | 「ミニモ二の靴下の子 がいる～」 子「たべてもいいよ ～」 | ジャングルジムの子に声をかける。 A男 走ってきて保にぶつかる。保はA男を追いかけていく。 |
|----|--|--|

記録2 保育のキャリアが感じられた保育者 (B2)

| 時間 | 言葉かけ | 動き・動作 |
|-------|--|--|
| 10:05 | K子「先生できた!」 「わーきれい。どこに飾ろうか。」 N子「牛乳パックでここにこうやって…」 「親指にぎゅっと力を入れるといいんだよ。」 | K子 N子 お店屋さんの看板を作る。 ままごとコーナーの入り口辺りに看板を当ててみる。 N子 看板が立てかけられるように看板の裏の下の方に牛乳パックをつけるアイデアを出す。牛乳パックの口を色の布ガムテープで貼ろうとするが、ガムテープがなかなか切れない。 クラス全体を見回しながら声をかけ、やって見せる。 |
| 08 | R君、さっき預けた飛行機持ってきてくれるの? いい?」 「 (聞き取れない) | 通りかかったR男が紙飛行機を持っているのを見て声をかける。 1人で絵を描いているY男に何か声をかける。 |
| 10 | 「こっちはこんにちは～こっちはさようなら～ってするとできるよ。」 子「最初からぐちゃぐちゃ。」 「きちんと折らなきゃ～」 子「できんもん。」 「ちょっと手伝うわ。」 | 廊下で手裏剣を作る2人の男児に声をかける。 |
| 13 | 子「R君が転んだ。」 「誰かとぶつかったの?」 「そうか、一人で歩いてたら転んじやったの。痛かったね。」 「少しは痛い飛んでったかな。転んじやってこれ飛んじやったんだ。」「これでいいね～。」 | 子どもの声に屋上へ出る。 R男のすりむいた膝をさすりながら声をかける。 R男首を横に振る。周りで見ている子に消毒を持ってくるよう伝える。 落ちた紙飛行機を拾い、部屋に戻りR男の箱に入れる。 R男箱に入れてもらった紙飛行機をうれしそうに抱え部屋を出て行く。 |
| 16 | 「どう? 看板立ちそう? 立たせてみようか。」 「ここは曲がっててもいいの?」 | 看板作りに再び戻る。 看板を立ててみてその底辺を指して声をかける。 |

| | | |
|----|-------------------------|---|
| | | <p>[R男] 部屋に戻り、箱入り紙飛行機を大切に自分のロッカーにしまう。</p> <p>底辺から浮いて付けられた牛乳パックを少しずらして付け直し、もう一度立たせる。</p> <p>[L男] 遊んでいた積み木を片付けずに帽子をかぶり外へ行こうとする。</p> <p>散らかったままの積み木を指して伝える。</p> <p>[L男]と[T男] 2人で片付け始める。[L男]はきちんと1つずつ並べるようにして入れ物にしまう。</p> <p>拍手をして喜ぶ。</p> <p>[L男]きちんと積み木を全て片付け、もとの場所に戻して外へ出て行く。</p> |
| | 「あ、これで立つんじゃない？」 | |
| 20 | 「ちょっとちょっとLくん、このままでいいの？」 | |
| | [T男] 「俺がやっとくでいいよ。」 | |
| | 「でもこれはひどくない？」 | |
| 26 | [K子] [N子] 「先生！できた～!!」 | |
| | 「やった～!!」 | |
| 28 | [L男] 「いってきま～す！」 | |
| | 「はい。いってらっしゃーい。」 | |

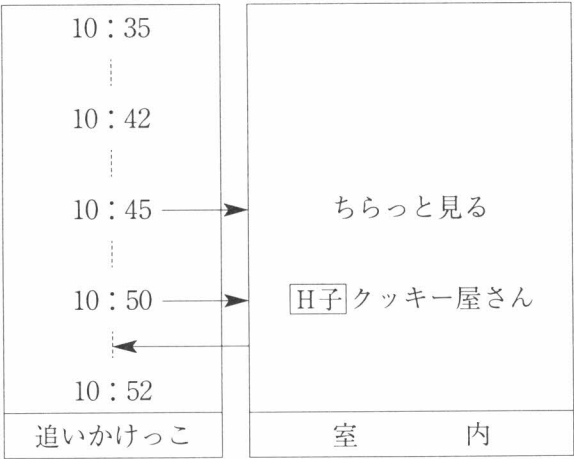


図1 新任保育者A2と子どもとのやりとり

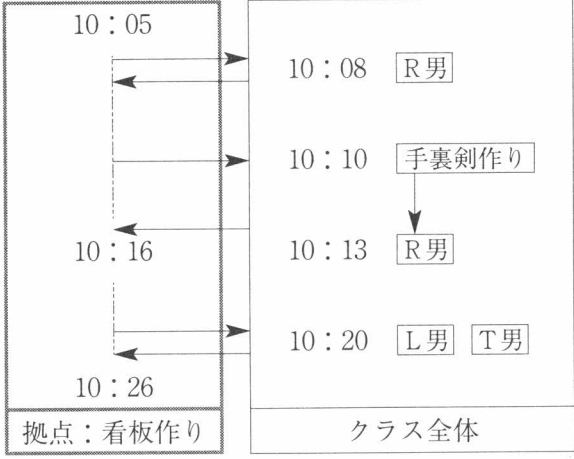


図2 キャリアが感じられた保育者B2と子どもとのやりとり

注：図中、矢印は保育者の心の向きを表す

2. 保育者と子どもとのやりとりから探る保育の「見通し」

保育者が「見通し」をもって保育をするには、自分が今どこに重きをおいて援助すべきかを探り、その拠点として見出した遊びや場所でじっくりと子どもとかかわりつつも、全体を把握するという視点をもつことの必要性が示唆された。以上のことからキャリアのある保育者から抽出された動きや所作の特性が「見通しをもって保育する」とことと密接な連関をもっているといえる。「見通し」をもって動くためには、子ども理解や発達に対する理解等が前提となっているので、保育者の援助の拠点が見出せない状況であれば、子ども理解が不十分であるという認識に立ち返ることが不可欠となる。これらのことを明らかにするために、保育者はどのような判断基準で援助の拠点をしているのかを検証する必要がある、今後の課題としたい。

《註》

保育者の資質、能力を表す言葉として、従来から専門的能力、あるいは専門性、指導力、保育能力、保育力等々が使用されてきている。本研究では、教職員養成審議会答申（1997年）のキーワードでもあり、今後一層実践面での指導力育成や向上が必要とされるという意味で、実践的指導力という概念を用いた。「一般に実践的指導力と言われるときには、個々の子どもに共感する力、保育を組み立て展開する力、園生活での関わりを育てる力を指している。」（1998 折出）ということであるが、この詳細については、引用文献の1）6）を参照されたい。

《引用・参考文献》

- 1) 愛知教育大学「教師（保育者）の実践的指導力」調査研究プロジェクト編 教師（保育者）・子どもが語る「指導力」 1998
- 2) 秋田喜代美 保育者のライフステージと危機 発達83 ミネルヴァ書房 2000
- 3) 藤崎真知代他 保育のための発達心理学 新曜社 1998
- 4) 萩原元昭編 幼児教育の社会学 日本放送出版協会 1998
- 5) 岩田幸子他 保育としての身体技法育成に関する研究 —「あやす」「なだめる」を中心として— 日本保育学会第54回 研究論文集PP. 195 2001
- 6) 大岩みちの他 保育における実践的指導力の育成に関する研究 —（1）園など受け入れサイドの保育者が求める実践的指導力について— 愛知教育大学幼児教育研究第8号 PP. 13～33 1999
- 7) 斎藤 孝 自然体のつくり方 レスポンスする身体へ 太郎次郎社 2001
- 8) 関口はつ江 保育者と幼児の関係形成について（Ⅰ） 日本保育学会第54回 研究論文集PP. 62 2001
- 9) 関口はつ江 保育者と幼児の関係形成について（Ⅱ） 日本保育学会第55回 研究論文集PP. 50 2002
- 10) 高濱裕子 保育者としての成長プロセス 風間書房 2001